

# 武蔵野書院

中古文学会会員様向け特設サイト  
2024年5月1日～6月30日

このサイトからのご注文に限り書籍を、  
**学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料**  
にてご注文いただけます

## ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする。**B** 書籍QRコードを読み取る。  
**C** 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。  
**A～C** のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は中古文学会会員である旨を明記ください。

## お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙にてお支払ください（振込手数料ご負担ください）。銀行振込でも承りますが、その際も振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

\*\*\*\*\*ご注文・お問い合わせ先\*\*\*\*\*

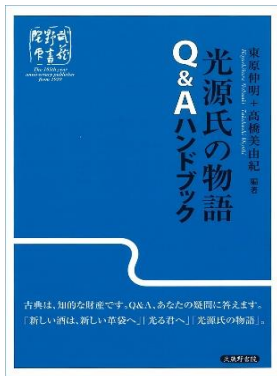
武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11

TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839

e-mail : info@musashinosho.in.co.jp

\*\*\*\*\*



最新刊

東原伸明  
高橋美由紀編著

光源氏の物語 Q&Aハンドブック

古典という「知」の遺産活用のために。

光源氏の物語を深く読むための 28の質問。



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 260頁  
刊行日：2024年4月15日 ISBN：978-4-8386-1013-6



最新刊

川村裕子 編

平安朝の文学と文化  
紫式部とその時代

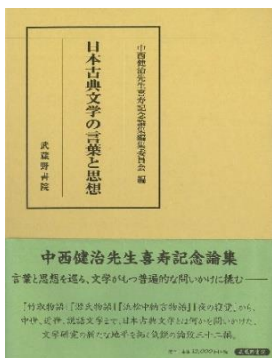
平安朝をテーマに

荒井洋樹 今井 上 大津直子 岡田貴憲 河添房江  
川名淳子 川村裕子 久保貴子 栗山圭子 東海林亜矢子  
陣野英則 須藤 圭 高木和子 竹内正彦 田淵句美子  
千野裕子 中村成里 畠山大二郎 原 豊二 福家俊幸  
緑川真知子 宮下雅恵 諸井彩子 山本淳子 渡辺開紀

の25人の論者による論文集



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 550頁  
刊行日：2024年4月26日 ISBN：978-4-8386-0794-5



最新刊

中西健治先生  
喜寿記念論集  
編集委員会 編

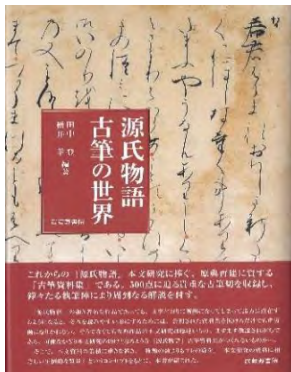
日本古典文学の言葉と思想

星山 健 中島正二 松浦あゆみ 大槻福子 吉海直人  
横井 孝 荻田みどり 原 豊二 竹内洪介 藏中しのぶ  
八島由香 池田彩音 西本寮子 坂本信道 川崎佐知子  
曾根誠一 石橋 孝 東野 陸 中西健治 野村倫子  
藤井佐美 児島啓祐 本多潤子 中本 大 原田信之  
高橋照美 三浦俊介 鈴木耕太郎 須藤 圭 山本 淳  
大坪 舞 高井悠子

の、32人の論者による論文集



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製函入 586頁  
刊行日：2024年5月15日 ISBN：978-4-8386-0795-2



最新刊

田中 登  
横井 孝 編著

## 源氏物語 古筆の世界

これからの『源氏物語』本文研究に捧ぐ、原典再建に資する「古筆資料集」。500点に迫る貴重な古筆切を収録し、錚々たる執筆陣により周到なる解説を付す。

停滞感に包まれている、原典再建を目指す本文研究。

諸処に分散した古筆切を通覧するには、途方もない手間暇を要する。

——可能なかぎり本文研究の助けとなるような『源氏物語』古筆資料集がつくれないものか——

という編著者の思いから、ここに、「種類の数よりもツレの数を」「本文研究の資料に相応しい圧倒的な質量」の古筆資料集が編まれた。

〈執筆者〉中葉芳子・佐々木孝浩・高田信敬・田中登

仁平道明・針本正行・舟見一哉・上野英子・横井孝

定価：本体25,000円＋税 判型：B5判上製カバー装 564頁

刊行日：2023年11月8日 ISBN：978-4-8386-0783-9



最新刊

大津直子 著

## 谷崎源氏の基礎的研究

戦時下から敗戦、そして戦後復興期にかけて変貌し続けた「谷崎源氏」というテキストの動態を通して、現代に生きる我々の「源氏物語観」の淵源を遡りそれが醸成される足跡を検証する。

定価：本体13,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 470頁

刊行日：2024年2月14日 ISBN：978-4-8386-0786-0



最新刊

内藤英子 著

## 源氏物語の表現への道

—歌ことばと漢詩文による新たな言語世界—

『源氏物語』の表現はいかにして創造されたのだろうか。

『源氏物語』以前には、和歌をはじめとして、漢詩文や仏典、作り物語・歌物語など様々な先行作品が存在した。

それらの作品をもとにどのようにして新たな文学作品を創造しているか、『源氏物語』の表現に至るまでの道のりとその達成を明らかにするのが本書の目的である。—序より—

定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 454頁

刊行日：2024年2月2日 ISBN：978-4-8386-0787-7



最新刊

室城秀之編

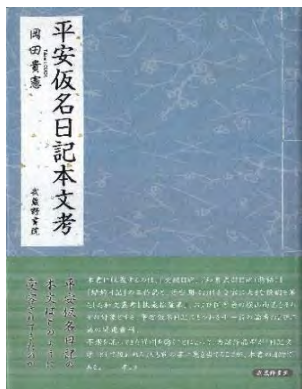
## 言葉から読む平安文学

言葉に対する正しい認識と理解をもって古典文学と向き合う

古典文学を読む際、その言葉に対する正しい認識と理解は不可欠である。古典作品を文学理論から分析することも大切だが、言葉に対する正しい認識と理解が不十分では、砂上の楼閣となってしまいうだろう。作品を言葉から読むことによって、どのような作品世界が立ち現れるのか。それぞれの問題意識をもって、気鋭の論客29名が論ずる。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 568頁  
刊行日：2024年3月11日 ISBN：978-4-8386-0793-8



最新刊

岡田貴憲 著

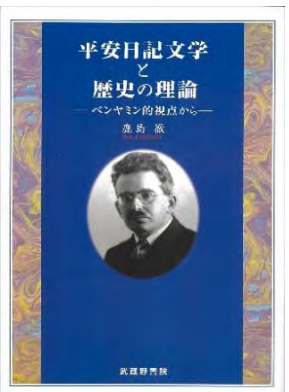
## 平安仮名日記本文考

平安仮名日記の本文はどのように受容されてきたのか

本書に収載するのは、『更級日記』『和泉式部日記(物語)』『蜻蛉日記』の三作品と、近世期における受容に大きな役割を果たした和文叢書『扶桑拾葉集』、および国学者の横山由清をそれぞれ対象とする、平安仮名日記にまつわる十一篇の論考および二篇の関連資料。不遇を託ってきた資料を繙くことによって、当該作品群が「日記文学」として扱われるよりも前の姿に光を当てるのが、本書の目的である。――序より



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 380頁  
刊行日：2023年12月13日 ISBN：978-4-8386-0784-6



最新刊

鹿島 徹 著

## 平安日記文学と歴史の理論 —ベンヤミン的視点から—

日本古典文学を哲学者の視点から読み解く――。

第二次大戦中、ナチスからの逃亡中に自死したドイツの哲学者、ヴァルター・ベンヤミン。先の大戦を上回る規模の世界戦争勃発が不可避となった事態に衝撃を受けたベンヤミンは、従来とはまったく異なる「歴史の概念」を提唱すべく、「歴史哲学テーゼ」を後世に遺した。本書は、このベンヤミンから多大な影響を受けた哲学者である著者・鹿島徹が、ベンヤミン的視点から日本古典文学を読み解く試みである。『土佐日記』『蜻蛉日記』を軸に、哲学者の視点から見る「物語」とはどのようなものか。哲学者の目から「物語」を考えた時、私たちにとっての「物語」の見え方も変わってくるのかもしれない。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 248頁  
刊行日：2024年1月15日 ISBN：978-4-8386-1012-9



**最新刊**

原 由来恵 著

## 枕草子の読み解き —地名類聚そして言語遊戯—

『枕草子』という作品は何なのか。

清少納言が中宮定子に仕えた時代は、大きな不安が包み込む時代でもあった。しかしそれらの悲劇性を『枕草子』の作者は感じさせることはない。  
『枕草子』のストラテジーはどのようなものであったのか。これまで注目されてこなかった「地名」類聚章段群を軸に、言語遊戯性とコンテクストから作品の本質を解き明かした今後の研究の地平を拓く画期的な一書。



定価：本体9,800円＋税 判型：A5判上製カバー装 454頁  
刊行日：2024年2月27日 ISBN：978-4-8386-0792-1



**最新刊**

高橋秀子 著

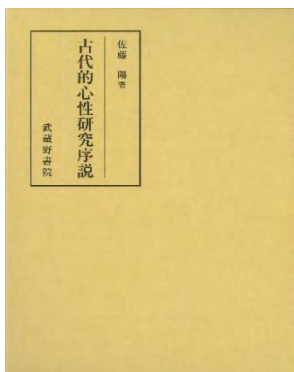
## 平安前期物語と和歌史 —現実世界と物語世界を越境する和歌—

現実世界と物語世界の和歌

物語が次々と誕生した10世紀。  
その物語には必ず和歌が書かれている。  
現実世界の和歌と物語世界の和歌は、  
どのように同じで、どのように異なるのか——。  
物語の和歌を組み込んで和歌史を捉えるという、  
新しい試みに踏み出す一書。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 238頁  
刊行日：2024年2月13日 ISBN：978-4-8386-0785-3



**最新刊**

佐藤 陽 著

## 古代的心性研究序説

本書の大きな目的は「古代的心性」の一斑を明らかにすることにある。具体的には折口信夫が楽音の俎上に上せた「芸能」の論、および折口学の中核である「まれびと」「常世」の論を足掛かりとして、それらを批判的に受け継ぎ実証的に「古代的心性」へ近づきたいと考える。  
本書は第一部「芸能」、第二部「踏歌研究」、第三部「常世」からなる。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製函入 366頁  
刊行日：2024年2月28日 ISBN：978-4-8386-0791-4



新刊

河添房江  
松本 大 編

## 源氏物語をよむための25章

『源氏物語』をより専門的に読んでみたいと思う大学生・大学院生や中高の教員、一般の方々に向けて、研究のおもしろさを伝える。一つの巻を中心にテーマ別に論じたものを巻順に並べた25章（桐壺巻～浮舟巻）からなる『源氏物語』研究ガイドブック！

定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 332頁  
刊行日：2023年10月1日 ISBN：978-4-8386-1009-9



新刊

廣田 收 著

## 紫式部は誰か

『紫式部は誰か』って、書名として奇妙だと思われませんか？  
この問いに正面きって答えようとする、なかなか難しいものがあります。確かに紫式部は平安時代に生きた人ですが、いくら歴史的資料を探しても、本当のところどんな人だったのかはよくわかっていません。いっぽう、文学の側から見ると、彼女はまちがいなく『源氏物語』『紫式部日記』『紫式部集』の中に居る、ということが本書の出発点です。これらの作品はそれぞれ随分と性格が異なりますが、切り口を工夫して読んでみれば、実はその根底で繋がっていることが確かめられます。彼女が遺した作品の中に潜む「紫式部は誰か」という問いについて、本書を手がかりにして、一緒に考えてみませんか？〔著者識〕

定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 284頁  
刊行日：2023年7月20日 ISBN：978-4-8386-1008-2



新刊

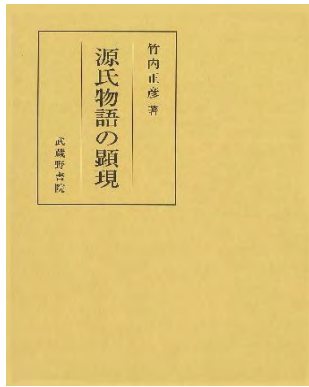
中島 紀 著

## 大和の大王家の姓と 聖徳太子の死の真相

—万葉集や伝承の語る王朝交代の七世紀

王朝交代は七世紀に起こった。そして勝者によって書かれた『日本書紀』が、オーソドックスとなる。一方旧大王家の後裔は、微妙なカムフラージュを施した『万葉集』の和歌の形で、歴史の真相を残そうとした。和歌や『今昔物語』などの伝承を参照すると、この時代が明らかになる。重要なのは、聖徳太子の死の真相である。

定価：本体2,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 180頁  
刊行日：2023年10月25日 ISBN：978-4-8386-1011-2



新刊

竹内正彦 著

源氏物語の顕現

『源氏物語』という緻密に織りあげられた表現世界。その世界は、読むという行為によって顕現してくる。

本書は『源氏物語』における表現世界の究明をめざした。光源氏とは何か。光源氏をめぐる物語とはいかなるものなのか。彼が歩んできたその踏み跡をたどりつつ、いまここに生き生きと顕現してくる物語の動的な様相を論じる。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製函入 530頁  
刊行日：2022年12月16日 ISBN：978-4-8386-0771-6



新刊

勝亦志織 著

平安朝文学における語りと書記  
—歌物語・うつほ物語・枕草子から—

十世紀文学における「語り」と「書記」の問題について

本書は、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』『枕草子』という十世紀に成立基盤を持つ文学作品を対象としている。理由は二つある。一つは文学史的にはバラバラなジャンルに位置付けられた作品であるがゆえに見過ごされてきた関係性を見直すため。もう一つは日本古典の最高傑作とされる『源氏物語』よりも前に成立した作品の意義を見直すことで『源氏物語』もまた数々の先行作品の蓄積のもとで成立したことを改めて見直したい、ということである。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 276頁  
刊行日：2023年3月3日 ISBN：978-4-8386-0776-1



新刊

後藤幸良 著

伊勢物語と四季

四季の扉の向こうに広がる、伊勢物語の新たな相貌

平安時代、竹取物語から源氏物語・狭衣物語へと続く物語史において、四季は飛躍的に重要性を増していった。その中間部の伊勢物語では、四季はどのような意義を発揮しているのか。伊勢物語は、古今集に代表される四季観を踏まえつつも、それを特有な形で継承することによって、四季の物語を成り立たせている。和歌集・漢詩文集などの四季観を要所に導入して個々の四季物語が実現し、そしてそれをテコとして伊勢物語の世界全体が、かけがえなく支えられていく。本書ではその様相が、春夏秋冬の各領域において明確に提示されている。

定価：本体9,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 286頁  
刊行日：2023年2月7日 ISBN：978-4-8386-0773-0



毛利 香奈子 著  
いはでしのぶ物語の研究—王朝物語文学の終焉—

『いはでしのぶ』という物語のなんたるかを問う

後嵯峨院時代に作られたとされるこの物語をはじめ、中世王朝物語は、『源氏物語』等の「模倣」として軽く扱われてしまうことが多い。この物語を精査し、「研究史」を問い、第一部では「見ること、似ること」のその双方の関係を捉えなおし、第二部では「手紙」という重要なアイテムから、物語の前半と後半での担う役割に注目し、第三部では「琴」と「笛」といった「楽器」や音楽からその背後にある皇統に触れ、第四部では物語の中心人物である「一品宮」について論じる。真正面から『いはでしのぶ物語』に挑んだ一書。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 320頁  
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0764-8



山下太郎 著  
王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—

新しい古典としての歌物語と日記物語

第一部には、歌物語に関連する四編の論を、また第二部には、日記物語を取り上げた十一編の論を収載した。検証作業に一貫するものは、諸書の渉獵による諸説の丹念な吟味、定説への挑戦と妥協の排除である。『和泉式部日記』を中心に据え、著者21年間に亘る研究成果を一冊に凝縮した。



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁  
刊行日：2021年7月26日 ISBN：978-4-8386-0756-3



**新刊** 中野方子 著 **新装版 三稜の玻璃**  
—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—

平安朝文学、漢文学、仏典が交叉し生み出す、複雑な光の饗宴

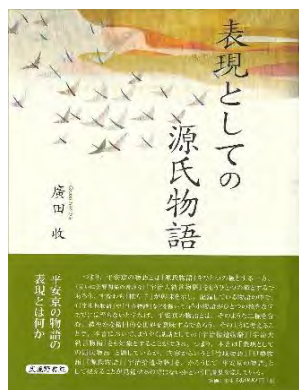
三稜の玻璃（プリズム）を透過した白色光は、七色の彩となって現れる。古のことばも、三稜の玻璃を通して、これまでとは異なる始原の相貌をもって輝き出すのではないか。業平、貫之、友則、伊勢などの和歌や、『伊勢物語』、『源氏物語』を中心とした平安朝文学と漢詩文、仏典という三面のジャンルが交叉し、交響し合う論文集が新装版にて登場！



定価：本体12,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 460頁  
刊行日：2023年2月10日 ISBN：978-4-8386-0777-8



## 廣田收 源氏物語研究三部作！



### 廣田 收 著 表現としての源氏物語

#### 平安京の物語の表現とは何か

平安京の物語とは『源氏物語』をひとつの極とする一方、（互いに影響関係の希薄な）『宇治大納言物語』をもうひとつの極とするであろう。『枕草子』が興味を示し、記録している物語の中で（『宇津保物語』や『住吉物語』等を除き）群小物語がひとつの核をなすまでに至らないとすれば、平安京の物語は、その二極を含む、緩やかな楕円的な世界を意味するであろう。そのように考えると、本書において、説話としての『宇治拾遺物語』『宇治大納言物語』をも対象とすることができる。つまり、本書は「表現としての源氏物語」と題するが、内容からは、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』などを、かろうじて「平安京の物語」として捉えることが見通せるのではないかという目論見を隠している。



定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 602頁  
刊行日：2021年6月23日 ISBN：978-4-8386-0755-6



### 廣田 收 著 古代物語としての源氏物語

#### 『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場

「研究として『源氏物語』をどのように読むのか」というとき、こう読まなければならないという決まった読み方が最初からあるはずもないが、単に恣意的な読みを披露し、散漫な感想を述べるだけでは『源氏物語』の研究としての読みに共感は得られないであろう。なぜなら、私的な読みに思わず知らず現代のもしくは近代的な基準による解釈が紛れ込む可能性があるからである。『源氏物語』が「読解至上主義」に陥ることを非難する向きもあるが、その危険性を回避し、私的な読みの暴走を抑制できるのは、注釈と隣接科学の成果を参照することであることは言うを俟たない。

ここに私の立場表明がある。つまり『源氏物語』を「古代物語として読む」という立場である。（本書「まえがき」より抜粋）



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 368頁  
刊行日：2018年8月25日 ISBN：978-4-8386-0712-9



### 廣田 收 著 文学史としての源氏物語

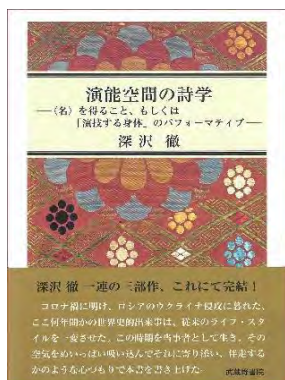
#### 紫式部という存在を睨み据えつつ…

わが国文学研究のめざすところは、日本的な精神や心性 mentalityの解明だけではないし、逆に普遍的な元型arche-typeの発見だけでもない。まさに『源氏物語』がどのような仕掛けや仕組みによって構築された本文であるかを明らかにすることを目的とする、と言挙げすればよいのではないか。その目的と方法こそ、『源氏物語』の本文そのものが「文学史としての『源氏物語』」であると捉えることに他ならない。ひとこと言えば、紫式部という存在を睨み据えつつ、古代の古代、古代の近代との併存する本文としての『源氏物語』を、基層と表層との重層性において捉えるという目論見である。（はしがきより）



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁  
刊行日：2014年9月26日 ISBN：978-4-8386-0276-6

## 深沢徹 一連の三部作、これにて完結！



**新刊** 深沢 徹 著

### 演能空間の詩学

—〈名〉を得ること、もしくは  
「演技する身体」のパフォーマティブ—

深沢徹 一連の三部作、これにて完結！

コロナ禍に明け、ロシアのウクライナ侵襲に暮れた、ここ何年間かの世界史的出来事は、従来のライフ・スタイルを一変させた。この時期を当事者とし生き、その空気をめいっぱい吸い込んでそれに寄り添い、伴走するかのような心づもりで本書を書き上げた。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 326頁  
刊行日：2023年3月20日 ISBN：978-4-8386-1005-1



深沢 徹 著  
「この国のかたち」を求めて—リベラル・主権・言語—

「この国のかたち」は如何にあるべきか？

ロシアによるウクライナ侵襲という事態が出来て、これはどうしても、いま「本」にしておかねばならないとのやむにやまれぬ思いにかられ、既発表のいくつかの文章を再構成するかたちで、急遽、本書を出版することとした。  
——本書「あとがき」に代えて より



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 206頁  
刊行日：2022年5月21日 ISBN：978-4-8386-0500-2



深沢 徹 著  
日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？  
—リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持して、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄、いわゆる〈リベラル・アーツ〉の営みとの関連で明らかにしていきたい。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁  
刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7



最新刊

大倉 比呂志 著

『風に紅葉』注解

『風に紅葉』をより深く読み解く

本書は『風に紅葉』を長年研究してきた著者による注解である。注釈を付すにあたり、宮内庁書陵部の桂宮本を底本にし、本文には濁点、句読点を付し、仮名遣いは歴史的仮名遣いに拠った。いくつかの読み方が想定される語句は、底本の仮名遣いに従い振り仮名を施した。明解な注解に、丁寧な語釈、わかりやすい訳文、必要に応じて付した考察により『風に紅葉』をより深く読み解く。



定価：本体9,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 280頁  
刊行日：2023年3月3日 ISBN：978-4-8386-1004-4



大倉 比呂志 著

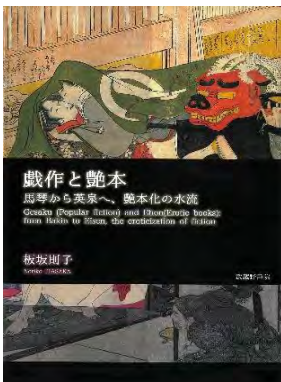
風に紅葉考 一百花繚乱する〈性〉への目差し―

風に紅葉の散る時は……

中世王朝物語に属する『いはでしのぶ』や『我身にたどる姫君』には、密通という〈性〉に関わる描写が溢れている。はたして、『風に紅葉』ではそれがどのように語られているのだろうか。本書七編の論文をもとにし、その実体を照射する。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 190頁  
刊行日：2018年1月25日 ISBN：978-4-8386-0476-0



新刊

板坂則子 著

戯作と艶本

馬琴から英泉へ、艶本化の水滸

艶本には職人としての浮世絵師と彫師、摺師のプライドが惜しげもなく示されている。多くは戯作者が担当する附文では性が笑いと結びついて奇想天外の展開が描かれている。

まずは世の中に一番多く出回ったのはどのような艶本か、という素朴な問いから、艶書往来を書誌と内容の歴史の変遷から見ていった。次いで、馬琴に関わる艶本を丁寧に読み解くことを目指した。巻頭カラーに『艶本多歌羅久良』『春窓秘辞』をたつぷりと掲載。また、本書には各所蔵機関や御所蔵者のご協力をいただき、著者架蔵本を含め、200を超える図版を掲載した。艶本を楽しみ、それを通しての人流を読み解く、艶本を紹介する研究書。



定価：本体17,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 468頁  
刊行日：2023年2月10日 ISBN：978-4-8386-0775-4



伊藤禎子 編著  
**うつほ物語—国譲巻の世界**

『うつほ物語』「国譲」巻「らしさ」とは何か？

前半「本文鑑賞編」で、『うつほ物語』「国譲」巻を読むために読んでおきたい場面を紹介。場面の選定は「国譲」巻への繋がりを意識して、それぞれの場面には簡単なリード文を附し、読みやすくなるような現代語訳をつけた。また、各文の最後には『うつほ物語』読解のポイントを「鑑賞・説明」としてまとめたので、それぞれの場面を読む際の参考となろう。後半の「論文編」では編著者をはじめ、ともに学んだ若手研究者の論文計七編を収録、日頃の研鑽の成果を公刊する。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 298頁  
刊行日：2021年11月24日 ISBN：978-4-8386-0763-1



吉海直人 著  
**源氏物語桐壺巻論**

源氏物語桐壺巻深読みのススメ

本書は、第一部 人物論Ⅰ（主要人物）・第二部 人物論Ⅱ（脇役）・第三部 表現論（特殊表現）の三部立てで構成される。源氏物語桐壺巻を立体的かつ深く読み進めることを企図した、著者三十年に亘る研究の成果である。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 324頁  
刊行日：2021年11月1日 ISBN：978-4-8386-0498-2



**最新刊**

吉海直人 著

**定本 新島八重伝**  
**倅不羈の女**

倅不羈（てきとうふき）の女・新島八重の生涯

この本の主人公・新島八重は、丈夫な体に不屈の会津魂とキリスト教精神を合わせ持ち、自分の信念を貫き通した女だった。それは新島襄が好んだ「倅不羈」のお手本（女性版）でもあった。「倅不羈」とは、才能が並はずれていてなにものにも拘束されないという意味である。それは今日まで同志社女子大学の女子教育に継承されている。

まずは八重の生涯を可能な限り資料でたどり、八重のことをきちんと理解することから始めよう。



定価：本体2,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 240頁  
刊行日：2023年10月25日 ISBN：978-4-8386-1010-5



**新刊**

原 國人 著

## 国語教材を聖く

—『ごん狐』から『舞姫』まで

先生！教科書の読み、それで大丈夫ですか？

『ごん狐』から『舞姫』まで。教材の核心に迫る読み解きへの方法と新しい世界の拡大。小・中・高から大学・大学院、そして生涯教育の現場に六十年近く携わってきた著者からの全ての教員と読書好きの読者への目から鱗のメッセージ。

定価：本体7,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 340頁  
刊行日：2023年5月15日 ISBN：978-4-8386-1007-5



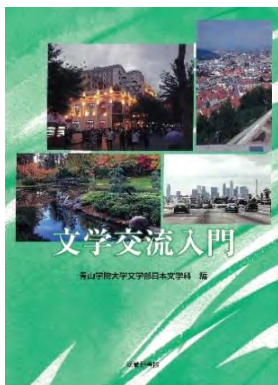
**最新刊**

内田美由紀 著

## 高等学校国語教職志望の皆さんへ

本書は高校の国語科教員になりたい方のための本です。  
本書では高校で教える際の国語の教科としての特色を述べ、教育実習に来る人々に早い時期から知っておいてほしいこと、教育実習やその後のこと、赴任してからのこと、高校の公務での教務的な問題について、学習指導要領や教科書についてなどをわかりやすく簡潔に述べています。

定価：本体1,000円＋税 判型：B5判並製 66頁  
刊行日：2024年2月15日 ISBN：978-4-8386-0661-0



**新刊**

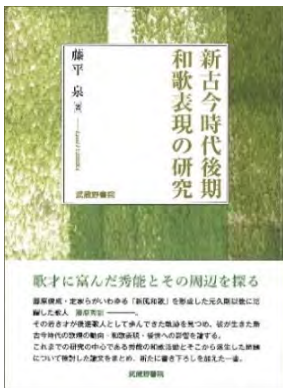
青山学院大学  
文学部日本文学  
科 編

## 文学交流入門

〈文学交流〉とは

この本では、「文学交流」を「異文化に立脚した文学相互の〈双方向〉的交流」と定義し、一つの研究分野として、幅広い時間・空間の中で、さまざまな角度から、かつ体系的に考察します。このような意味での「文学交流」を、この本では〈文学交流〉と表記します。そして、〈文学交流〉の研究は、文学を通じて、異文化間の〈相互理解〉（“相互誤解”も含めて）が、過去から現在まで、また広い地域間でどのように行われてきたかを解明し、未来の〈相互理解〉に貢献することをめざします。

定価：本体1,500円＋税 判型：A4判並製 128頁  
刊行日：2023年9月1日 ISBN：978-4-8386-0659-7



新刊

藤平 泉 著

新古今時代後期和歌表現の研究

歌才に富んだ秀能とその周辺を探る

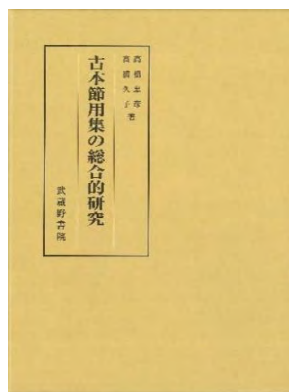
藤原俊成・定家らがいわゆる「新風和歌」を形成した元久期以後に活躍した歌人 藤原秀能——。

その若き才が後進歌人として歩んできた軌跡を見つめ、彼が生きた新古今時代の歌壇の動向・和歌表現・後世への影響を論ずる。

これまでの研究の中心である藤原秀能の和歌活動とそこから派生した問題について検討した論文をまとめ、新たに書き下ろしを加えた一書。

定価：本体7,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 462頁

刊行日：2023年3月31日 ISBN：978-4-8386-0780-8



新刊

高橋忠彦  
高橋久子 編

古本節用集の研究

本書は、既刊の『いろは分類体辞書の総合的研究』（二〇一六）と『意味分類体辞書の総合的研究』（二〇二一）と同じく、室町時代の辞書研究を主題とする論文集である。

前著二冊で論じた、いろは分類体の色葉字類、意味分類体の和名集類、そして本書のいろは分類と意味分類を兼ねた節用集類の三者を概観することで、室町時代に多様に発展した国語辞書の全体像を見渡すことができる。

定価：本体27,500円＋税 判型：A5判上製函入 上巻780頁 下巻732頁

刊行日：2023年8月4日 ISBN：978-4-8386-0781-5



新刊

安田 尚道 著

上代日本語研究史の再検討

上代日本語に関する橋本進吉の論に疑問を呈し、新たな考察を展開、上代日本語の“研究史”に焦点をあてた新論。

万葉仮名の二類の書き分け（上代特殊仮名遣）の存在と、それが音韻の区別に基づくことは、本居宣長・石塚龍麿などがすでに述べていることで、“橋本進吉がのちに宣長・龍麿とは無関係に独立して発見した”との説は認めがたい。橋本がはじめ、“又”に二類あり、『古事記』では子にも二類あり、としたのは、龍麿の『仮字遣奥山路』に基づくものである。宣長・龍麿が認めた『古事記』のモノ二類の区別を橋本がのちに否定したためこの区別の再確認を行なった池上禎造・有坂秀世は、その過程で『韻鏡』の利用や「音節結合の法則」などから、上代特殊仮名遣が音韻の区別に基づくことを明確にしたのであった。【本書第5章より】

定価：本体11,500円＋税 判型：A5判上製函入 344頁

刊行日：2023年5月19日 ISBN：978-4-8386-0779-2





最新刊

長崎靖子 著

## 式亭三馬の言語描写 —三馬蔵書印書を手掛かりに—

式亭三馬の著作は江戸語の一級資料として語彙や文法、待遇表現などを研究するうえで様々に利用されている。これら三馬の著作には特殊表記や特殊語彙が用いられ、三馬が著作の中で工夫を凝らし、精緻な言語描写を目指していたことがうかがわれる。しかし、三馬が特殊表記や特殊語彙をどのように著作に活かしたのか、という点に関する実証的な研究はほとんど進められていない。本書は式亭三馬の蔵書（三馬の蔵書印が押された書）を手掛かりに三馬の言語描写に関し考察を行うものである。



定価：本体13,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 476頁  
刊行日：2024年2月9日 ISBN：978-4-8386-0788-4



最新刊

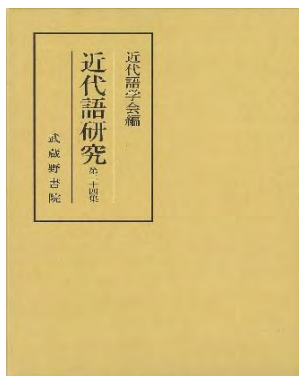
上野和昭 著

## 文献アクセント史論考

中世後期（室町期）以後の文献資料にもとづく日本語アクセント史の研究論文、講演録など12編を収める。あつかう文献資料は、論議書・平曲譜本・語学書・仮名遣書におよび、ほかに文献アクセント史研究の要点を述べた論文1編を添える。論議書に付された節博士や平曲譜本の声譜から過去の京都アクセントの様相をあきらかにし、さらに契沖・文雄・宣長など、近世の四声観・アクセント観を追究する論文集。これまでのアクセント史研究を見なおす一書である。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 298頁  
刊行日：2024年2月28日 ISBN：978-4-8386-0789-1



最新刊

近代語学会 著

## 近代語研究 第二十四集

肥爪 周二／坂詰 力治／山田 潔／矢田 勉  
浅川 哲也／松井 利彦／小松 寿雄／長崎 靖子  
小柳 智一／平井 吾門／佐藤 貴裕／今野 真二  
米田 達郎／久保田 篤／新野 直哉／伊藤 博美  
北澤 尚／園田 博文／許 哲／常盤 智子  
林 淳子／服部 紀子／櫻井 豪人／荒尾 禎秀  
玉村 禎郎／田和真紀子／村上 謙

27名の論者による、論文集。



定価：本体16,300円＋税 判型：A5判上製函入 630頁  
刊行日：2024年3月11日 ISBN：978-4-8386-0790-7



新刊

大川 孔明 著

## 日本語学会論文賞叢書4 古代日本語文体の計量的研究

——古代日本語文体の体系的な位置づけを明らかにする。

日本語とはどのような言語なのか。日本語の文にはどのようなタイプがあるのか。

日本語の実態を把握するうえで、はたして「文体」とは何を指し、どのように理解すればよいのであろうか。

従来の古代日本語の文体研究では、個別作品や少数作品間の比較など、対象が限定的であったという点、個別的で少数の指標や限られた視点からの分析に留まるといふ点が問題として残り、古代日本語の文体の位置づけを体系的に検討するという段階には至っていなかった。

そこで本論は、古代日本語の文体の体系的な様相を精緻に明らかにすることを目的に、多様で多量の指標から、『日本語歴史コーパス』(CHJ)より用例を収集し、計量的な手法を用いて検討を行う。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 256頁

刊行日：2023年9月21日 ISBN：978-4-8386-0782-2



新刊

沖森 卓也 編

## 図説 日本の辞書 100冊

### 辞書の定義とその範囲

辞書とは、ある基準によって選ばれた語彙について説明を加え、引きやすいように一定の順序に配列した書物のことをいう。改まって呼ぶ場合は「辞典」とも言い、また、俗に「字引」と呼ばれることもある。

辞書は、①誰が、②どのような時に、③どのような目的で使用するかによって、その性格が異なる。①は辞書の規模や構成などにかかわるもので、辞書の使用者が一般社会人か研究者か、年少者か高齢者か、外国人かなど、職業や年齢、母語か否かなどによって要請される辞書はさまざまである。②は主に辞書の規模にかかわるもので、図書館などで調べるとき、学校や家庭で学習するとき、戸外に携帯して引くとき、コンピュータで使用するときなど、辞書を使用する場面も多様である。③は主として解説する対象やその構成にかかわるものである。

定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 302頁

刊行日：2023年9月20日 ISBN：978-4-8386-0660-3



新刊

畑 恵里子 編

## 享受される海洋文化 —伝説・楽園・異界—

まもるべき海の異界の、宮殿

「三つの課題が眼前にあった。

一つ目は、浦島伝説の研究の現状と市井の人々の享受と乖離である。(中略)二つ目は、現在の浦島伝説の享受の実態把握である。(中略)そして、市井の人々が気軽に参画が可能で、かつ、ある程度の専門性を有する学術的企画はできないものか。これが三つ目の課題である。」

(「あとがき」より)

定価：本体1,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 184頁

刊行日：2023年1月31日 ISBN：978-4-8386-1003-7



# 注文書

Fax 03-3291-4839

Mail : info@musashinoshoin.co.jp

この注文書でご注文いただければ、学会割引（税込定価の2割引+送料無料）を適用させていただきます（2024年6月30日まで） 中古

書籍名	価格	部数	公費・私費
光源氏の物語 Q&Aハンドブック	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
平安朝の文学と文化 紫式部とその時代	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
日本古典文学の言葉と思想	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
源氏物語 古筆の世界	本体： 25,000円+税	部	公費・私費
谷崎源氏の基礎的研究	本体： 13,500円+税	部	公費・私費
源氏物語の表現への道—歌ことばと漢詩文による新たな言語世界—	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
言葉から読む平安文学	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
平安仮名日記本文考	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
平安日記文学と歴史の理論—ペンヤミンの視点から—	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
枕草子の読み解き—地名類聚そして言語遊戯—	本体： 9,800円+税	部	公費・私費
平安前期物語と和歌史—現実世界と物語世界を越境する和歌—	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
古代的心性研究序説	本体： 12,000円+税	部	公費・私費
源氏物語をよむための25章	本体： 2,500円+税	部	公費・私費
紫式部は誰か	本体： 2,500円+税	部	公費・私費
大和の大王家の姓と聖徳太子の死の真相—万葉集や伝承の語る王朝交代の七世紀	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
源氏物語の顕現	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
平安朝文学における語りと書記—歌物語・うつほ物語・枕草子から—	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
伊勢物語と四季	本体： 9,000円+税	部	公費・私費
いはでしのぶ物語の研究 —王朝物語文学の終焉—	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
王朝日記物語の展開—歌物語と日記物語—	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
国語教材を壟く—『ごん狐』から『舞姫』まで	本体： 7,000円+税	部	公費・私費
新装版 三稜の玻璃—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—	本体： 12,500円+税	部	公費・私費
表現としての源氏物語	本体： 14,000円+税	部	公費・私費
古代物語としての源氏物語	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
文学史としての源氏物語	本体： 11,000円+税	部	公費・私費
演能空間の詩学—〈名〉を得ること、もしくは「演技する身体」のパフォーマティブ—	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
「この国のかたち」を求めて—リベラル・主権・言語—	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？—リベラル・アーツの可能性に向けて—	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
『風に紅葉』注解	本体： 9,000円+税	部	公費・私費
風に紅葉考—百花繚乱する〈性〉への目差し—	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
戯作と艶本 馬琴から英泉へ、艶本化の水流	本体： 17,000円+税	部	公費・私費
うつほ物語—国譲巻の世界	本体： 8,000円+税	部	公費・私費
源氏物語桐壺巻論	本体： 3,000円+税	部	公費・私費
定本 新島八重伝 倅不羈の女	本体： 2,000円+税	部	公費・私費
国語教材を壟く —『ごん狐』から『舞姫』まで	本体： 7,000円+税	部	公費・私費
高等学校国語教職志望の皆さんへ	本体： 1,000円+税	部	公費・私費
文学交流入門	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
新古今時代後期和歌表現の研究	本体： 7,500円+税	部	公費・私費
古本節用集の研究	本体： 27,500円+税	部	公費・私費
上代日本語研究史の再検討	本体： 11,500円+税	部	公費・私費
式亭三馬の言語描写—三馬蔵書印書を手掛かりに—	本体： 13,000円+税	部	公費・私費
文献アケセント史論考	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
近代語研究 第二十四集	本体： 16,300円+税	部	公費・私費
日本語学会論文賞叢書4 古代日本語文体の計量的研究	本体： 10,000円+税	部	公費・私費
図説 日本の辞書 100冊	本体： 2,500円+税	部	公費・私費
享受される海洋文化—伝説・楽園・異界—	本体： 1,500円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
上記以外の書籍〔 〕	本体： 円+税	部	公費・私費
ご注文者	公費の場合		
お名前	お電話番号	お宛名	
ご送付先	公費伝票類		
〒	日付 あり・なし	納品書	通
	見積書 通	請求書	通